

鑑賞

歌舞伎とは

\_\_\_\_\_ 時代のはじめに誕生

音楽、舞踊、演劇、美術など、いろいろな要素をあわせもつ \_\_\_\_\_

「勧進帳」は

日本の古い伝統芸能 \_\_\_\_\_ をもとにつくられている。

主な登場人物

源 \_\_\_\_\_ 一家来の 武蔵坊 \_\_\_\_\_、四天王

×

関守の \_\_\_\_\_ 左衛門

舞台

\_\_\_\_\_ の関所（関）

解説

見え  
見得

はなみち  
花道

歌舞伎の決まりポーズ

歌舞伎「勧進帳」の音楽は

\_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ 節 \_\_\_\_\_ 音楽

伴奏や語り

舞台上に並んで演奏

効果音

くろみす  
黒御簾の中で演奏

使用楽器 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ など

物語の進行につれて変化する、音楽の特徴に気をつけて聴こう。

音楽の特徴、長唄の発声、節まわし、楽器の音色など

① 最初の部分（登場まで）

② せつかん 折檻 ~ つめあい 詰合い

③ えんねん 延年の舞 ~ とびろっぽう 飛び六法

歌舞伎全体の感想

歌舞伎「勸進帳」参考資料

役	せりふ	訳
富樫	斯様に候う者は、加賀の国の住人、富樫左衛門にて候。さても頼朝義経御仲不和とならせ給ふにより、判官どの主従、作り山伏となつて、陸奥へ下向のよし、鎌倉殿聞し召し及ばれ、国々に斯くの如く新関を立て、山伏を堅く詮議せよとの厳命によって、それがし、此の関を相守る。方々、左様心得てよかろう。	私は石川県の富樫左衛門である。頼朝と義経の仲が悪くなり、義経と家来が山伏に変装して東北に逃げようとしていることに頼朝様が気づき、関所を作って山伏を探せとの命令をうけた。わかったか？
番卒甲	おおせの如く、この程も怪しげなる山伏を捕らえ、鼻木（けふぼく）に掛け並べ置きましたござる。	おっしゃるのように、この間も怪しい山伏を捕らえて、さらし首にしました。
番卒乙	われわれ御後に控え、もし山伏と見るならば、御前へ引き据え申すべし。	私たちも山伏をみたら、連れてまいります。
番卒丙	修験者たる者来りなば、即座に縄かけ、打取るよう	修行の者がきたら、縄をかけてつかまえるよう、
番卒甲	いづれも警固	しっかり守って
三人	いたしてござる。	います。
富樫	いしくも各々申されたり。猶も山伏来りなば、謀計（はかりごと）を以て虜にし、鎌倉殿の御心安んじ申すべし。方々、きつと番頭仕（つかまつ）れ。	よく言ってくれた。もし山伏が来たらうまく捕まえて、頼朝様を安心させたい。きちんと見張っているように。
三人	かしこまって候。	わかりました。
長唄	旅の衣は篠懸の、旅の衣は篠懸の、露けき袖やしをるらん。時しも頃は如月の、如月の十日の夜、月の都を立ち出でて。	旅の身支度は山伏の着る朝の衣をはおって、露にしめった袖も涙でしおれるのだろうか。

場面	役	せりふ
勸進帳読み上げ	弁慶	大恩今日主の秋の月は、涅槃の雲に隠れ、生死長夜の永き夢、驚かすべき人もなし。爰に中頃帝おはします。御名を聖武皇帝と申し奉る。最愛の夫人に別れ、恋慕の情やみ難く、涕泣眼に荒く、涙玉を貫ね乾くいとまなし。故に上求菩提の為、盧遮那仏を建立し給う。然るに、去んじ寿永の頃焼亡し畢（おわ）んぬ。かかる霊場の絶えなん事を欺き、俊乗坊重源勅令の蒙って、無情の観門に涙を落とし、上下の真俗を勧めて、かの霊場を再建せんと諸国に勧進す。
	富樫	頭に戴く兜巾（ときん）は如何に。
	弁慶	これぞ五智の宝冠にて、十二因縁の襷（ひだ）を取ってこれを戴く。
	富樫	掛けたる袈裟は。
山伏問答	弁慶	九会（くえ）曼荼羅の柿の篠懸（すずかけ）。
	富樫	頭に戴く兜巾（ときん）は如何に。
	弁慶	これぞ五智の宝冠にて、十二因縁の襷（ひだ）を取ってこれを戴く。
折檻	弁慶	ナニ、判官どのに似たる強力め。一期の思い出、あら腹立ちや。日高くば能登の国まで越さうずると思えるに、僅かの笈一つ背負って後に下がればこそ、人も怪しむれ。総じてこの程よりやあもすれば判官どのよと怪しめられるは、おのれが仕業の拙きゆえなり。ムム、思えば憎し、憎し憎し、いで物見せん。
	富樫	イヤ、早まり給うな。番卒どものよしなき僻目より判官どのにもなき人を、疑えばこそ、斯く折檻もし給うなれ。今は疑い晴れ候。とくとく誘い通られよ。